

## 広域・同時多発災害対応訓練（2/20 実施）実施要項

災害科学・レジリエンス共創センターでは、和歌山県社会福祉協議会（以下、県社協）ならびに和歌山市社会福祉協議会（以下、市社協）との共創のもと、和歌山大学の防災力強化・人材育成の一環として、災害ボランティアセンター（以下、災害 VC）開設・運営訓練を主催します。

### 【実施背景】

- ・災害科学・レジリエンス共創センターでは、常設の災害ボランティア拠点となる機能「災害ボランティアステーション（むすぼら）」（3月11日発足）を備え、防災減災復興の担い手づくりに継続的に取り組む。
- ・大規模災害が発生した場合に、紀ノ川の横断が困難になる恐れがあり、北岸のボランティア拠点としての役割が、本学に期待されることが予想される。
- ・「避難訓練・被災状況確認訓練（発災直後対応）」、「避難所運営訓練（発災数時間後～）」とともに、「災害ボランティア対応訓練（発災数日後～）」も重要となる。
- ・県社協（和歌山県災害ボランティアセンター）では、県内を紀北・紀中・紀南の3ブロックに分けて広域同時多発災害に備えた災害 VC 運営訓練が、毎年1回実施されている。
- ・本年度、本学に価値共創研究員として県社協職員を迎えたことを機に、合同訓練の運びとなった。実施にあたり市社協の協力も得る。

### 【概要】

- ・紀北地域の広域で災害が同時多発したことを想定しており、県社協を本部として、同日時に開催されている海南市社協、高野町社協の訓練とも情報共有しながら進行します。
- ・20名程度が、災害 VC 運営役とボランティア役に分かれ、ロールプレイングを行います。
- ・災害 VC の運営の様子を、オンライン会議システム（Zoom）を用いて、県社協本部に中継します。また、県社協によって当該 Zoom 配信は、関係団体（県内市町村社協職員等）に公開されます。
- ・当訓練を通して、県域における災害支援の連携関係を築くことで、本学の防災力を高めるとともに、地域を学び地域で学ぶ、教育資源にも繋げることを目的とします。
- ・実施にあたり、新型コロナウイルス感染対策を十分に行い、今後の感染拡大の状況によっては、開催の可否も検討します。

日 時 : 令和3年2月20日(土) 9:00~12:00

実施場所: 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 応接会議室および学生オープンスペース

主 催 : 災害科学・レジリエンス共創センター

### 【実施体制】

責任者: 和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター長

参加教職員: 災害科学・レジリエンス共創センターにかかる教職員（6名程度）

学内の教職員に参加を呼びかける（10名程度）

学外協力者: 和歌山市社会福祉協議会 職員

県内の市町村社協中核支援者（運営支援者）

【訓練スケジュール】(2/12~2/20(13・14日を除く))

日時		災害時の流れ(想定)	訓練の内容
2/12(金)	発 災	線状降水帯が発生し、局地的豪雨により中小河川の氾濫や土砂崩れ、家屋の浸水など被害が生じる。(紀北エリア広域) ・エリア内の被災状況を把握、対応協議 県社協は市社協に市内の被害を照会 和太は構内および周辺道路等の状況把握	被災状況を把握、対応協議 →県社協は市社協に被害照会
~2/18(木) まで	災害 VC 開設 準備	市社協と和太が連携する ・災害 VC 運営マニュアル確認・帳票準備 ・ボランティア募集・事前受付 ・県社協から運営支援者派遣調整	・ Google Form を使う訓練 ※1 ・ 市社協-大学間の打合せ ※2 ・ 運営マニュアル確認 ※3 ・ 帳票準備 (市社協より提供)
2/19(金)		災害 VC 会場設営	会場設営・市社協と最終確認 ※4
2/20(土)	災 害 VC 稼 働	県社協からの運営支援者到着 災害ボランティア 運営開始 ニーズ把握 ボランティア受付・オリエンテーション マッチング・資機材貸出 活動(巡回) 資機材返却・活動報告	9:00 集合 Zoom 接続※5、運営支援者派遣 9:30 全体会・オリエンテーション 9:45 活動開始 ※6 運営役とボラ役に分かれて活動 運営役:5つの班(各2名) ボラ役:ニーズ(被災者の困りごと)の解決策を話し合う (時間が余れば運営役・ボラ役交替) 11:10 各 VC でスタッフミーティング
		情報共有会議 社協・行政・民間協力団体などの情報共有	11:30 全体会・ふりかえり 12:00 訓練終了

※1 発災時にボランティア募集を発信する想定で Google Form を使ってみるという訓練  
(学内の訓練参加者を募るのは別途)

※2 市社協-大学間の打合せを Zoom で行う

※3 市社協に備えられている災害 VC 運営マニュアルを和太に共有してもらい調整する

※4 和歌山大学 Kii-Plus 応接会議室と学生オープンスペース(Kii-Labo)を使用 (配置案別紙)

※5 会議室と Kii-Labo に固定カメラ1台ずつ。他 VC と県社協本部を Zoom で結ぶ

※6 運営役 10名程度 5班×2名 (オリエンテーション、受付、マッチング、資機材、活動報告)  
ボラ役 10名程度 数名ずつグループになってニーズ解決 (机上シミュレーション)  
(時間が余れば運営役・ボラ役交替)

**配置案** 東3号館（旧教育学部棟）南 103・107号室

災害VC運営役：①②③④⑥それぞれに2名ずつ配置し、ボランティア希望者への対応を体験する。

ボランティア役：①～⑥を順に回り、災害ボランティア活動参加の流れを体験する。

③で受け取ったニーズ（課題）の解決策をグループで検討する。

